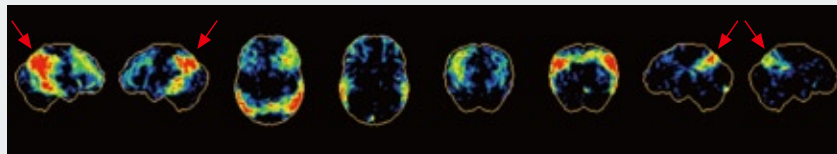
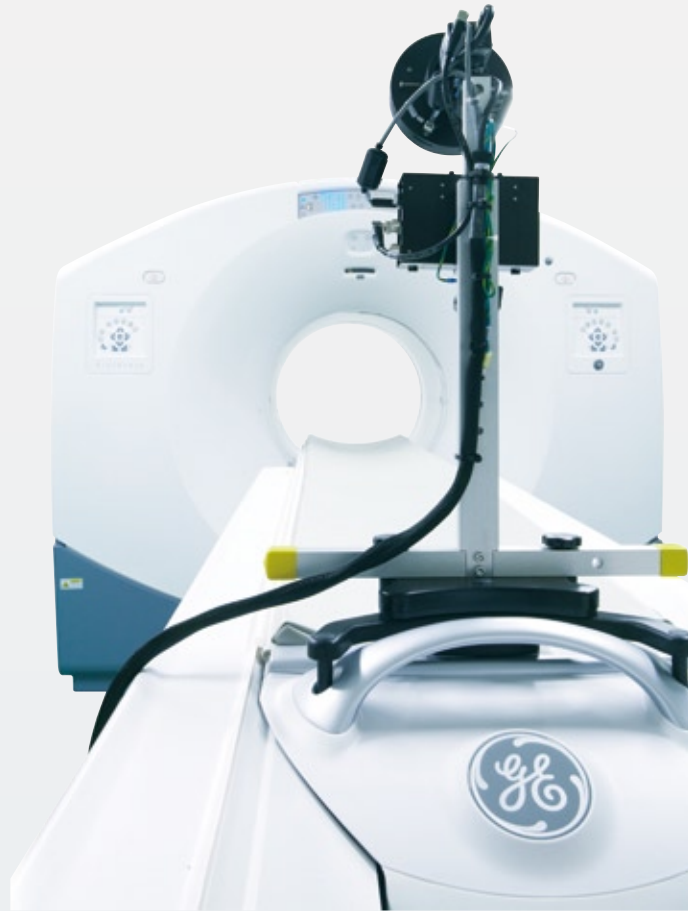




# PETだからできる 発症前の認知症検査

アルツハイマー病はMCI(軽度認知障害)という状態を経て数年後に発症することが知られています。FDG-PETを用いて脳機能を調べればアルツハイマー病発症前の軽度認知障害の段階で生じる脳機能の異常を検出し、更にMCI(軽度認知障害)からアルツハイマー病への移行リスクも評価できます。



## PET認知症検査(FDG)

通常価格：75,000円(税別) 2.5時間

PET人間ドックと同時に受けると

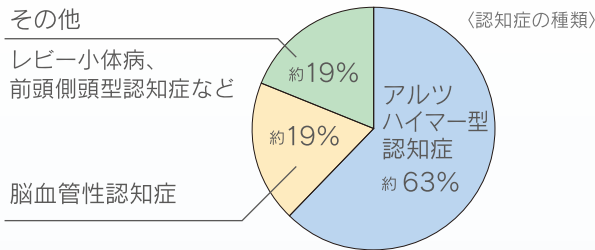
**半額** 37,500円 追加30分 (税別)

※PET認知症検査(FDG)は自由診療です。

# PET認知症検査(FDG)

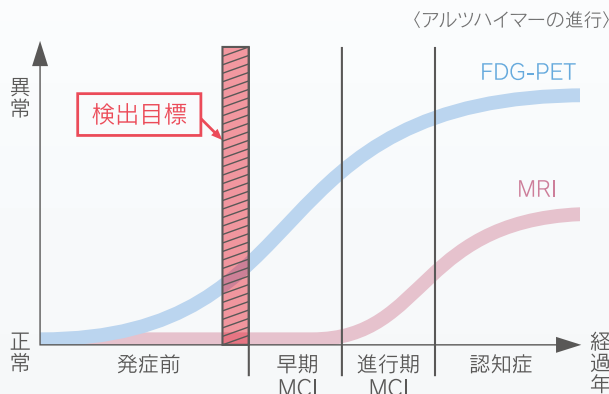
## 認知症6割はアルツハイマー型

認知症の原因は「アルツハイマー型認知症」、「脳血管性認知症」、「レビー小体病」が3大認知症と言われており、中でも最も多いのが「アルツハイマー型認知症」です。



## FDG-PETでMCI(軽度認知障害) 早期の“認知症予備軍”を検査する

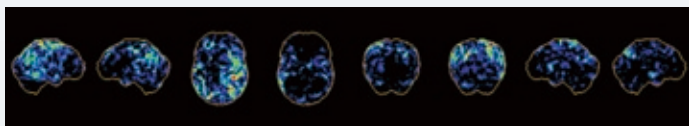
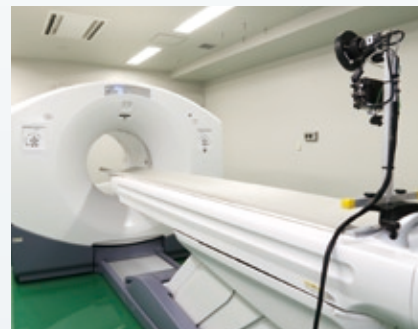
認知症は、MCI(軽度認知障害)と言う前段階を経て発症します。また、MCIからは約50%の人が認知症になるとも言われています。FDG-PETではアルツハイマー病発症前のMCIを早期に検出する事を目標としています。



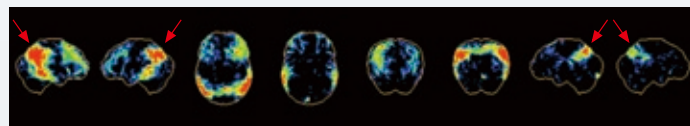
FDG-PETはMRIよりも早期に異常をとらえることができます。(右表参照→)

## 脳血流SPECTよりも鮮明に異常を描出

日本では現在のところSPECTを用いて脳血流を検査する方法が認知症の検査として保険適用を認められています。FDG-PET検査は脳血流SPECT検査と比較して高感度、高分解能で画質がよく、さらに脳はほぼすべてのエネルギーをブドウ糖から摂取するため原理的にもFDG-PETの方が脳血流SPECTよりも鮮明に異常を検出できます。しかし、PET検査を行うには高価な装置とFDGを合成するための大掛かりな設備が必要となるため、我が国ではいまだに保険適応は認められていません。(米国では適応を限って認められています。)



正常



アルツハイマー型認知症

## PET認知症検査(FDG)で分かる認知症

アルツハイマー型認知症	脳血管性認知症	前頭側頭葉変性症	レビー小体病
○	△	○	○

※認知症の病型を区別するにはMRIが必要となる場合があります。

## 認知症は治療ではなく予防を

科学の進歩によりアルツハイマー型認知症の進行を薬や生活習慣で遅らせることが可能になりつつあります。LSI札幌クリニックでは認知症を発症前の早期に検出し対策してゆくことを目指しています。

### 検査項目

※PET人間ドックと同時に受ける場合は追加の注射はありません。

脳PET

認知機能テスト

統計解析